

令和7年 第8回奈井江町教育委員会会議録(第1日)

招 集 年 月 日	令和7年8月21日		招 集 場 所	公民館 中会議室		
開 会 日 時	開 会	令和7年8月28日		午後 1 時 00 分		
閉 会 日 時	閉 会	令和7年8月28日		午後 4 時 30 分		
応 招 委 員	教 育 長	相 澤 公	○	委 員	塩 田 邦 恵	○
出席 4 名	職務代理者	三 原 新	○	委 員	山 本 和 樹	○
欠 席 1 名	委 員	矢 萩 優 子	×			
議 事 出 席 職 員	事 務 局 長	遠 藤 友 幸			傍聴人 0人	
	文化振興係主幹	井 内 啓 太				
	教育支援係主幹	井 上 圭 世				
会 議 に 付 し た 議 事 案 件	号 数	件 名			可否区分	
	報告第1号	教育長行政報告			承認	
		奈井江町部活動地域移行検討委員会答申				
	議案第1号	令和7年度教育費補正予算について			可決	
	議案第2号	全国学力・学習状況調査の公表について			可決	
	議案第3号	令和8年度から使用する教科用図書の採択について			可決	
	協議第1号	奈井江町教育ビジョンについて			継続協議	

令和7年 第8回 奈井江町教育委員会 議事録

	1. 開会 13:00
遠藤局長	本日矢萩委員が体調不良により欠席されていますが、ただいまより第8回奈井江町教育委員会を開催いたします。教育長、以降進行につきましてよろしくをお願いいたします。
相澤教育長	暑かった夏が終わったのかなというように思えるここ数日ですが、9月に入ったら若干戻るといようなこともあるようです。本日の議題でも来年度に向けご議論いただきたい議題がいくつもありますので、まだ8月末ではありますけども来年とかその先とかを見越した中で、本日もいろいろと意見交換させていただきたいです。よろしくお願いします。 それでは会議に入って参ります。次第3番目、前回の会議録の承認ということで説明をお願いします。
井上主幹	3. 前回（令和7年7月16日）会議録説明
相澤教育長	皆さんから何かございますか。
委員	ありません
相澤教育長	それでは、承認といたします。
相澤教育長	4. 報告 報告第1号 教育長行政報告 1ページをご覧ください。 まず初めに7月22日、かねてより今年度取り組んでおります奈井江小学校での性教育授業ということで、7月22日は5年生を対象に行っております。5年生は今年度2回やる予定をしておりますし、9月に入ったら中学校でもやっていくという予定になっています。 次26日ですが第53回の全国性教育研究大会に私が参加をしています。全国いろんな箇所にて持ち回りで大会をしている研究会事業として、今年は札幌で開催されていまして、私のが参加しています。いろんな職種の方が集まる意見交換や研究会なのかなと思って参加したのですが、全国から集まった養護教諭の方たちの研究大会ということで、教育長職の人はたぶん私1人だったのかなというふうに思いますし、養護教諭さんたちの集まりなので、98%くらい女性というような中での大会でした。午後からはグループワークでのディスカッションにかなり時間を割いていまして、私もその中の1人として参加しました色々他の参加者皆さんとお話をしてきたところですけども、多くの養教教諭の方たちが訴えていたことの1つは学校で色々なことをやりたいと思っているけれど、やはり予算の壁があったり、人材をどうやって見つけてくるかということでした。そもそものところで、"学校全体での取り組み"との位置づけをしてもらわないとなかなか一人ひとりでは難しいところがあって、そういうところをもっと配慮して欲しいという切実な訴えをしている人が何人かいらっしゃいました。なので、つい先日開かれた定例の校長教頭会議の中で、私からお願いしたことの1つは、各学校に養護教諭が1人ずついますけれども、色々普段思っている企画を挙げて下さい、予算要求して下さいと話しました。当然、中身を精査させてもらうことは必要ですけども、

相澤教育長	子ども達のためになることであれば、予算配分についても考えていきたいということを伝えたところです。 次、7月29日から8月8日にかけて、約2週間にわたって朝活事業を行っています。今回は札幌弁護士会の方に来て頂いて法教育したりとか、町の方で新たに連携協定を結んだ北海道科学大学だったりとか、連携協定を結んだわけではないけれども、これから連携していきましょうというようなことの話し合いをした北海道教育大学の先生や学生さんに来てもらい、子どもたちに授業をして頂いています。今回の朝活授業の中で、私としてちょっと力を入れて取り組んでもらったことの1つが、プログラミング講座です。単にゲームとかスマホとかではなくて「子どもが普段使っているものを題材に、少しでも学びに結びつけるということを考えられないだろうか」という発想から始まり、目的の1つ目として、今、世の中の様々なものがプログラミングによって動いていて、人々の生活が成り立っているので、3日間にわたるプログラミング講座を行っています。プログラミングによって、工業製品を作り出し、世界中に送り出している企業が地元にあるので、コラボ企画にしたのと、目的の2つ目として、プログラミングができれば、地元企業に勤め、生まれ育った町を離れなくても良いというようなことも含めたキャリア教育の側面もあると考えて北海道住電精密さんにご協力を頂いて、今回4日間にわたる授業を行いました。講座の実施を受けていただいたプログラミングを教える株式会社マナビットさんと、北海道住電精密さんには、感謝の言葉しかありません。 1日前後しますが、8月7日に新しい外国の外国語指導レインジャー・リリアン・アナイズさんを迎えています。愛称アニーさんです。アニーさんは、カナダ出身の女性の先生です。小学校とこども園の担当することになっております。 次が8月18日。堀美鈴前教育委員さんに公民館に来ていただいて、私の方から地方教育行政功労者の表彰状の伝達をしています。表彰したのは、全国市町村教育委員会連合会です。8年以上の務められた方を対象に感謝状送られています。 次、8月23日産業まつりが開催されています。今年も、子ども会議で、ガチャガチャと工作コーナーなどのブースを持って頂いているという事と、なかなか朝活用のピーマン作りをしたのですが、たくさん収穫ができたので、なかなかの塾生が産業まつりでピーマンの販売を行っており、約140個程度販売し完売しているということであります。 以上、行政報告といたします。
相澤教育長	みなさんから何かございますか。
委員	ありません。
相澤教育長	それでは、報告済みといたします。
相澤教育長	それでは、次第5番「奈井江町部活動地域移行検討委員会答申について」です。 検討委員会結果について委員長さんの方から答申いただきたいというふうに思います。委員長さんこれから呼び込みますので、少々お待ちください。

	～奈井江町部活動地域移行検討委員会 委員長：高橋 典之 氏、副委員長：野村 智久 氏～入室
相澤教育長	ご着席ください。 それでは、検討委員会の皆様には、夜の時間帯、そして多くの回数お集まりいただき、精力的に意見交換をしていただき、本日配付されている答申書をまとめていただきましたことに、お礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。それでは、検討委員会からの答申をお受けしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。あと委員長さんと、それから副委員長さんから、強調したい箇所等あれば、我々この後検討するときの参考になりますので、追加で説明いただければと思います。
高橋委員長	奈井江町部活動地域移行検討委員会で委員長を務めました高橋典之と申します。検討委員会からの答申についてお話しさせていただきます。 今年の2月13日を初回とし、制度や現状の説明を受け、3回にわたってグループワークを行い、8月7日に第5回委員会を開催し、この答申書をまとめました。 教育委員の皆様には答申書が事前配付されているということですので、私からは答申書の簡単な概要と主に各委員からの意見、私の意見や感想などをお話しさせていただきます。 まず、奈井江町部活動地域移行検討委員会答申書の概要についてですが、「1. はじめに」につきましては、奈井江町人口ビジョンによる推計や国の考え、当委員会の設置及び検討経過について記載しています。「2. 現状及び課題」につきましては、奈井江中学校部活動種目及び加入状況、令和5年度に行ったアンケート結果の状況などについて報告しています。「3. 基本的な考え方」につきましては、課題整理の段階で、委員会として少し考えを整理する必要があると判断し、3本の柱として考え方をまとめたことを記載しています。1つ目は、まずは「休日の部活動を移行する際の課題」を整理し、移行を実施してみよう。2つ目は、指導者・子ども達・保護者・教職員の信頼関係やコミュニケーション、ルールの構築を重視しよう。3つ目は、子ども達や保護者のニーズに対応するためには、将来的に広域的な取組視点が必要であるだろうという3本柱で検討を進めることとしました。「4. 部活動の今後のあり方について」につきましては、3本柱を核として、部活動の地域移行を3ステップで進める案を提案しています。第1ステップとして「休日の部活動を地域へ移行するために」、第2ステップとして「平日の部活動を地域移行していくために」、第3ステップとして「広域的な連携について」という内容です。「5. おわりに」については、検討委員会での議論の中で出てきた意見などの総括を行っています。 次に、奈井江町部活動地域移行検討委員からの意見や感想についてお話ししたいと思います。 グループワークの中で出された意見については、答申書の最後に添付していますが、1つ目に、部活動を通じて子ども達に培って欲しいと思うことは、体力や精神力、技術、競い合うことだけではなく、協調性や規律遵守などの社会性であるとの保護者視点です。2つ目に、子ども達を取り巻くソフト面での

高橋委員長	環境整備です。子ども達が組織内で孤立したり、活動しづらくなならないよう、指導者・保護者・教職員・学校などが情報をしっかりと共有し、どこかにシワ寄せがいくことがないよう、協調性をもって子ども達を支援する組織づくりです。学校での部活動から地域クラブ活動への移行とはいいつつ、やはり活動している子ども達が生活時間の多くを過ごす「学校」との関係は切り離すことにはならず、これに加えて、将来的に広域化などを見据えた時の送迎などの調整・連絡、活動の指導者が急に不在になった場合の対応など、しっかりとした組織が必要です。3つ目は、子ども達や保護者のニーズの全てに対応することは困難を極めますが、定住促進のために、少しでも寄り添い、多くの種目を体験することができる機会の創出には、広域的な取組が必要です。人口規模が大きな自治体に全てを任せるのではなく、指導者や風土、施設なども考慮し「広域の拠点校」などの視点も必要だと思います。また、義務教育期間を「一貫の学び」と捉え、活動している少年団などの種目を継続するなどの視点も併せて考える必要があると思います。 ここまでの熟議を経て、私の思いについて、お話ししたいと思います。部活動は、一生の仲間づくりであり、学校との授業とは別の経験ができる貴重な場所だと考えます。また、教職員のみなさんの負担軽減も必要であるとは言いながら、その負担を自治体に全て任せるのは乱暴だと考えますので、保護者負担、送迎や会費等についても検討が必要だと考えます。奈井江町が住む場所として選ばれるために、部活動がないとはならないと思いますし、自分も協力していきたいと思っています。そして、ここまでの熟議が、部活動の地域移行に反映されることを強く望みます。 以上、検討委員会からの答申といたします。
相澤教育長	野村副委員長から、何か補足等ございますか。
野村副委員長	部活動の地域移行は、地域と学校が一体となって進めていく必要があります、移行を進めていく中で質を高めていければよいと考えます。何より、子ども達の経験を深めることが大切であり、学校、家庭、地域、行政みんなで協力していくことが必要だと思います。教員も部活動を教えたいという先生もいますので、平日は、今までどおり指導できるような体制ができれば、教員がかかわることも可能なのではと思います。
相澤教育長	ありがとうございます。このいただいた、答申をもとに今後教育委員で協議を進めていくことになります。現時点で教育委員さんから確認したい点
相澤教育長	などありませんか。
三原委員	多くの協議を重ね答申いただきありがとうございます。確認だったのですが、部活動が地域移行することで、指導に対する質といいますか、きちんとした指導者である必要性というような意見はありましたか。平日は、きちんとした指導者に見てもらいながら、土日は、保護者などの「見守り」でもよいなど、そういった意見があったのかお伺いできればと思います。
高橋委員長	平日は、教職員の先生に地域移行先の団体にて継続して指導をしてもらったり、私も保護者の立場で、ソフトテニスの活動を行っていますので、現状の指導や練習の場を継続できるようなことが良いという意見はありました。た

高橋委員長	だ、私たちの活動も、練習の場を見守るといった協力はできますが、大会の参加や怪我をした時の対応など、責任が大きく伴うことになると思うと難しいと考えます。
塩田委員長	外部講師の方が関わってもらうとなると、指導方法など保護者との関わりの中で問題が生じる場合があると思う。地域に移行すると簡単にいっても学校での部活動では生じなかった課題もあると考えます。あと、町内で行う部活動としては、色々な経験をという意見もありますが、地域特性のあるスポーツに絞っていくことも必要かと思いますが、そういった意見はありましたか。
高橋委員長	現在中学校で部活動があるものは基本としながら、地域移行できるものは地域移行、近隣自治体と広域連携できるものは連携していくということで話はできていました。部活動でいくと、ソフトテニスが強いので、そこは今いる先生に指導をしてもらいながら、継続できるような体制づくりができればよいとも思います。子ども達の多様な活動の場としては、現在いるコンディショニングの協力隊の方たちの活動を広げた中で、日常は、協力隊が活動を見守りながら、時には様々なジャンルの外部講師を招聘するなどの活動も良いのではと話していました。
山本委員	今いる教職員の先生を地域移行しても指導にあたってもらえるような制度になったら一番よいとは思いますが。吹奏楽部を指導できる先生は、なかなかいないので。また、教員の方は、部活動の指導をしたくて先生になった方もいると思うので、異動になったとしても、引き続きここで指導して欲しいとお願いしたら、やってくれるのではないかなと思うのですが。
高橋委員長	そうなればよいとは思いますが、教職員の方の働き方改革や負担軽減という観点から地域移行の話が進んできていることもあるので、持続可能な活動としたときに、どういった方法が良いのかは、地域との協議、近隣自治体との連携、保護者負担がどのようになるか、ひとつひとつ課題を解決しながら進める必要があると考えます。
山本委員	近隣自治体連携となると活動場所への送迎が大きな課題だと思います。現在仕事をしている家庭が多いので、送迎を保護者がするのは難しい。そこは何か意見ありましたか。
高橋委員長	送迎についてはみなさん同様に課題だと話していました。送迎をスクールバス等委託するとしても保護者の経費負担が増えると活動しづらくなってしまいうので、負担額は今とあまり変わらない程度でできるのが良いという話もありました。
相澤教育長	それでは、私からも確認をさせてください。 令和5年に行った子どもたちへのアンケートで、多様なスポーツをしたいという意見が多かったと思いますが、その点については、検討委員会の中で話し合われたりしましたか。あと、当面休日の活動を地域移行ということなので、休日の活動をどうするかといった意見はありましたか。
高橋委員長	現状、中学校に継続されている3つの部活、ソフトテニス・バレー・吹奏楽を地域でできることは地域移行、できないことは広域連携する方法、好きなスポーツをする「スポーツ部」などを町内で行ったり、現状ない部活についても、

高橋委員長	近隣で連携が可能なものがあれば、連携するということで活動の場を広げられるのではないかという話がありました。
相澤教育長	地域移行としたときに、しっかりとした指導を求める「部活動」というイメージなのか、楽しく活動する「サークル」というイメージで話をされていたのか、そのへんはどうでしたか。
高橋委員長	やはり、部活動を通して、身に着くことも多くあると思うので、検討委員の中では「部活動」の良さということもあり、現在の「部活動」を継承できるのであればそれが良いという意見がありましたが、地域移行することで、そうはいかない部分もあるという話もでていました。また、地域移行により色々な大人が関わることになると、指導方法が指導者によって変わるなど、子ども達が戸惑うことにもなりかねないので、その辺の体制づくりも課題だという話もありました。
相澤教育長	検討委員さんの中で、「新たな活動を」という話はありませんか。
高橋委員長	特にそういう話はなかったと思います。
相澤教育長	わかりました。しっかりとこの答申を受け止め、教育委員の中で協議を進めていきたいと思います。改めて本当に夜にお忙しいところ、何度もお集まりいただき、議論いただきましたこと、誠にありがとうございました。 今日の答申を受け、教育委員会として次回以降議論を行い、来年度末までに、一定の方向性を出していければと思います。委員長さん、副委員長さんにおいては、ここで退席になりますが、今の時点で、教育委員さんから聞きたいことはありませんか。
委員	ありません。
相澤教育長	それでは、高橋委員長、野村副委員長、ご説明ありがとうございました。
	～奈井江町部活動地域移行検討委員会 委員長：高橋 典之 氏、副委員長：野村 智久 氏～退室
相澤教育長	改めて、検討委員長、副委員長から答申を受けましたが、皆さんの感想や、これからあるべき姿への思いを聞かせてもらえたらと思います。
塩田委員	アンケートで、小学校、中学校先生が回答しているものもあったと思いますが、子ども達への思いは果たしてあげたい、でも協力できないってそういう反面がすごくわかるアンケートだったと思います。ですが、広域連携するとしたときに、まず人間関係ではないのですが、繋がりをきちんとしていかないと、どこかで溝が出来たら、やっぱりバッシングに繋がらないのかということが心配です。そして、この近隣で拠点はどこでとなった場合、まずそこまで連れて行く交通費や、送迎の負担も考えていかなきゃならないので、簡単に地域移行できるよってという話にはならないのかなって感じました。色々な団体の方たちとのディスカッションやそれを調整していくことが大変だと思います。
山本委員	自分の子どもが小学生でサッカーをやっているのですが、奈井江と砂川が合併して、週に1回、平日の砂川で練習するのですが、そのときに、照明施設がない場所なので、本当は8時までの練習のはずが、日没が早くなったので7時に迎えに来てくださいと言われ、8時までだったら、時間的にいろいろ家庭

山本委員	的にも余裕があったりするのですが、7時って急に1時間早まると、奈井江から行って帰ってきてそれだけで結構な時間になりますし、迎えに行く頃には、とても暗くなってしまう。広域になると、こういった送迎にかかる保護者の負担の大きいところがあります。大会となると遠征にいったりということもあるので、土日が休みの家庭ばかりではないので、土日に送迎できない家庭は、お願いすることになるので、負い目を感じるようになってたり難しさがあるのかなと思いました。あと、現在部活動に関わってくれている学校の先生も地域移行の団体に行って指導を行う、それっていいなと思いました。要は現状と大きく変わらないというシステムですよ。子どもたちの成長を授業以外の場所でも学校の先生がみていただける、それが一番リスク的なことも極力回避されるものだと思うので、それができるのがいいなと思いました。例えば今、ソフトテニス是指導力のある先生がいらっしゃるので、その先生が別のところへ異動になっても引き続き奈井江で指導してもらえると、奈井江町の特色にもなるのではと思います。
相澤教育長	奈井江町に家がある先生や、特別奈井江に思い入れがある先生はそうしてくれるかも知れませんが、野村副委員長が言っていたように、実際に土日だけ奈井江に来て指導してくれるというのは、現実的ではないと思います。空知でも小中学校統廃合して、義務教育学校にしていくっていう大きな流れがあるので学校の数減っている一方でなぜこうなったのかっていう原因にも起因するのですが、部活を持ちたくないとか、専門的にやっていたものがないということで部活を持たない先生が増えているので、例えば先生たちの人事異動の中で、A先生が奈井江中学校でブラスバンドを教えていて、次の赴任先にブラスバンド部がない学校だとしても、そのA先生が奈井江に教えに来てくれるという確率は、すごく少ないと考えます。あと足の問題で行くと、じゃあ公的に何かって事になりがちなのですが、例えば今の教育委員会だけで見ても、スクールバスの運転手を確保するだけでもかなり四苦八苦していて、部活でAグループは砂川、Bグループは上砂川とかっていうのもかなりハードルが高いかなと思います。例えば、隣まちのバス会社でも、観光バスの運転手を確保するのもすごく苦勞しているという話を耳にします。そういう中で土日だけ部活のために奈井江から砂川まで頼みたいというのは難しい。色々な面でハードルが高いと感じます。
塩田委員	お母さんたちの話を聞くと、みんな大変そうです。送迎の話をする、やはり「スクールバスで対応して欲しい」って口々に言っています。そういう現状もあるのであれば、皆さんにわかってもらうアプローチも必要なのかもしれないです。こういう問題もあるってこともわかっていただかないと、みんなが理解した上で進めていけないと思います。
三原委員	何日か前に高校生の息子に中学時代ソフトテニスをやっていたので、「もし、たまに先生がいない日があったらどうか」と聞いてみました。すると、「メリットはあると思う」と答えたのですよ。私もそう思います。だから今日の質問だったのですが、僕は第1歩としては、今ある3つの部活を、土日だけ指導できる人に限らず、誰かが見守ってくれる人だけの人を置いて、あとは子ども

三原委員	達に任せる、というのも一步じゃないかなと僕は思います。指導できなくていい。できる先生が入ると指導の仕方が変わりそうということなので、逆に見守りだけで、土日に配属するっていうやり方もありかと思います。その方がいいと思います。その方が人材確保もしやすいはずです。とはいっても、簡単じゃないかもしれませんが、第一歩を踏み出す上で、一番ハードルが低いと考えます。
相澤教育長	そうですね。
塩田委員	以前参加した市町村教育委員会研究協議会の分科会の中で、地域移行の話が出たときに、奈井江町より人口の少ない町で、全町民にアンケートを取ったとお話ししているところがありました。そのアンケートの中で「私はこれだったらできますよ。」「これだったら教えられますよ」というような町民の方が300人いたそうです。そういったチャレンジも必要なのかも知れません。とはいっても、実際に「やって」となると、実際にやってくれる方がどの程度いるのかはわかりませんね。とはいっても、何もやらずにいても進みませんし、地域を巻き込んでいくには、何かしらチャレンジが必要なのかも知れません。
三原委員	見守り隊の報酬というような、何かモデルケースみたいのってあるのでしょうか。
遠藤局長	今国の方に答申がされていったものに対しての審議がされていて、これから出てくると思います。それを踏まえて、ある程度どれぐらいにするとか、あとは国の補助的なメニューが考えられているので、どのような活用ができるのかというのは、これから年内中にはでてくる予定です。
塩田委員	先ほど参加した協議会の分科会の中で、コンビニが1軒もないというところがあって、1回来てくれたら現金を手渡すという話をしていたところもありました。奈井江町のようなところでしたら、町内に還元するためにふれあいチケットを出すというようなイメージでもいいと思います。国の方針を見ながら、独自の考え方でもいいのかなと、奈井江町はこういうのですよっていうか。ボランティア的な金額でもいいと思いますが、何かあった時のため保険は必ず入る必要があるとは思っています。
相澤教育長	先ほど、ちょっと否定的な話をしてしまいましたが、今の若い先生はちょっとわかんないところがありますが、今部活をやっている先生たちは、部活をやりたくて先生になったよっていう人も少なからずいるというか、かなりいると思うので、平日の部分は、当面の間は大丈夫なのではないかと思っています。そして、土日もあるは大丈夫なのでは？とも思っています。ただそこで、広域化になって、どうしてもこれは広域でやらざるをえない、送迎の問題みたいなところは課題として出てくるのかなと思っています。また今後、近隣で取り組むものをどうしていくかみたいなのところも含めた中で、皆さんと情報共有しながら、次回から議論していきたいと思いますのでよろしくお願いします。 部活動の地域移行ですけど、これっていつまでに決めるのでしたか。
井内主幹	9月の総合会議までには来年度の予算要求するために何らかの方向性はだす必要があると考えています。今、国が答申の審議をしている最中ですので、

井内主幹	具体的なものが出てこないの、具体的な数字等を示すのは難しいですが、単純にどういうふうな形で、来年このような仕組みを作るという内容ぐらいまではお話できていれば、いいかなというふうに思っています。
相澤教育長	それでは、来月の教育委員会までに、これとこれは広域でやります、とか、これとこれはいくらかかる、とか、受けてくれる受けてくれないはあるかも知れないけれど、バスを出しますとか、保護者に送迎頼みますとか、ある程度具体的なものを出すということですか。今日は、検討委員さんの考えを聞かせてもらったというところで、具体的なことはあまり書かれてないので、そこまで決めていかないと広域で何をやるかっていうことを議論できないし、町として何が必要かとか、どんな講師を引っ張ってくるとか、どこを保護者に頼むとか、例えば1回保護者に頼みます、千円で頼むのか3千円で頼むのか。それは補助金がつく見込みなので仮置きで2千円で置いておきましょうなのか。
遠藤局長	今回の答申にもあったように、ファーストステップというような、まずできるところからということである、現状の部活動を土日に移行するのか、どのような形ができるかを具体的にまず予算措置をしたいなという思いはあります。その大まかな指針というか、考え方を教育委員さんと共有して、ある程度見通しみたいになつてという思いはあったのですが、そこに今言っていた国の答申というか、ある意味目安みたいなものを出してくれることになっているので、そこを踏まえた予算の反映というか、予算措置の要望をしたいと思いますが、その前に、総合教育会議があるので、教育委員さんから考え方というものを町長にも示したいというところがあります。ある程度固めたいとは思いますが、具体的にどこまでっていうのはなかなか期間が短く難しいなっていうのが正直なところあります。大きくというか、まずそのファーストステップというか、来年の予算措置でここまですべてを考えているというところまでは少なからずとも皆さんとすり合わせたいというところです。
相澤教育長	教育委員会も、今この答申については「そうだね」っていうことじゃないかなと思うのですが、もうちょっと具体的なものも含めて、子どもに説明したりとか保護者に説明して、わかってもらうプロセスも必要だと思いますが、それはどう考えていますか。
遠藤局長	やり方としては例えば子ども会議ですとか、町民会議とかで意見を聴ければと考えています。
相澤教育長	当事者に聞かなきゃいけないと思います。子ども会議は当事者かもしれないけど、一部の子どもたちしかいない。そして、町民委員会は当事者とはいえない、ゼロじゃないかもしれませんが。やはり、中学校の生徒たち、保護者世帯、これから中学校に上がろうとしている子どもたちとか保護者にも説明して、意見を聴く必要があると思います。教育委員会と町長が総合教育会議で、これでいこうって決められるものではない。
井内主幹	教育委員会として答申を受けたので、次は教育委員会というステップが今日ということですね。
相澤教育長	今日は、基本的な考えや思いを聞かせてもらったというところで、今度先の事を言うと、子どもとか保護者におろすときは、ある程度具体的なものを作っ

相澤教育長	ておろさないと、結局わからないってことになるので、ある程度具体的なものを決めていかなきゃいけない。
遠藤局長	例えば今、教育委員会のテーブルに乗ったので、ある程度そこで考えたもの、確かに、教育長がおっしゃられたとおり具体的なものを示した中で子どもたちや保護者に意見をもらう場というのがあって、その意見を受けて、実施する際のストーリー的にはなるかなと思っていました。
相澤教育長	私の認識が間違っているかもしれませんが、予算要求をするっていうことは、さっき単価は違ってもみたいな話をしたかもしれませんが、やる内容は決まっているという認識でいます。予算要求するということは、具体的なものも見えて決まっているってことじゃないかなっていう発想のもとに、今話しています。なので、広域でやれるもの、やれないものなど、まだ全然見えていない段階で、総合教育会議で町長と何を議論すべきなのが見えない。
遠藤局長	なので、今意見をお聞きした中で、それを踏まえて具体的にファーストステップの部分での考え方みたいなものを町長にもお話しをしたいなって考えています。とりわけまず最初に取りかかりたいこと、考え方みたいなものを示めしたいと思っています。
相澤教育長	次の教育委員会までにそれができるとのことですね。
遠藤局長	そのつもりです。
相澤教育長	わかりました。
相澤教育長	それでは、 次第 6 番「議事」 に入ります。 議案第 1 号「令和 7 年度教育費補正予算について」 説明をお願いします。
遠藤局長	説明
相澤教育長	事務局からの説明がありましたが、質問等ございますか。
委員	ありません。
相澤教育長	それでは、議案第 1 号は可決といたします。
相澤教育長	議案第 2 号「全国学力・学習状況調査の公表について」 説明をお願いします。
遠藤局長	説明
相澤局長	何かご質問等ございますか。
三原委員	算数を解いた上での感想ですが、結論を言うと、この点数はその通りかなと思います。奈井江の教育は詰め込んだ知識の競い合いではなくて、様々な体験学習から自ら考える力を養うということなので、だとしたら、それが点数に表れたのだと思います。そういうテストだと思いましたし、そう感じました。めっちゃめっちゃ簡単です。びっくりするぐらい簡単です。今までも簡単でしたが、文章が長いという傾向でしたが、今年は、文章すら短くなっていたので、ものすごく簡単で、知識も要らないです。日常生活の中で、色々な疑問を解決している人が、これを解けるのだらうなって思います。そういう視点でぜひみなさんにも解いてみて欲しいと思います。6 年生は比較的勉強面でも優秀な学年だということだったので、この結果はそうだろうなという感想です。
山本委員	算数の力も大事だけれど、国語だなんて本当に思います。うちの息子も算数の問題をみて、日本語が理解できたら答えられるかなと言っていました。問題

山本委員	文に必要以外のことは書いていないので。そして、学校の先生たち、校長先生、教頭先生、ななかま講師含め子どもたちの学力向上のために真摯に取り組んでいるということも大きいと思います。
相澤教育長	夏休みの朝活で、ボランティアに来ていた学生で、青森で教育実習の際に、やったクラフトワークを朝活でもやったそうです。形はすでに印字されていて、それに色を塗ったり、切って、折って、貼るといった作業です。奈井江の子は驚くほど、弘前の子よりも下手で作れなかったとのことでした。以前、鳥の巣箱を作ったときも、初めてトンカチを持ちました。初めてノコギリを使いました。きっと家でも、家庭科的なお手伝いがされていないのかと思います。今のまちづくり計画を作るときに、家庭科の専科の先生を雇用したいと入れたかったのですが、色々なことがあって、それは叶わなかったのですが、やっぱりそういうところ、生活に根ざした先に勉強の要素があって、それが生きる力をつけさせるための真の勉強みたいなことがあって、そこがしっかりできてれば、こういう学力テストもおのずと点数が上がって来ることが確認できた気がしました。
三原委員	受験のテストと違いますね。内容が。
相澤教育長	塩田委員はどうですか。
塩田委員	私はおばあちゃんの立場なので、なかなか口を出せないかなというところでは。やっぱり子どもたちの考え方が違うので、押し付けたくはない。孫たちは学校がすごく楽しくて、帰りが少し遅くなったので「帰り遅かったね」って尋ねると「先生と一緒に勉強したから」と話してくれたりします。学校もななかまにしても朝活にしても、子どもたちにとっては、学びや体験できる場にはなっていると思います。
相澤教育長	今ちょっとこの話を振ったのは、この後出てくる教育ビジョンのところで、少し何かネタになるかなと思って話をしてみました。それで、さきほど局長は、今年と去年の比較について説明しましたが、例えば今年の中学校3年生が前回6年生のときどうだったかという比較について触れたいと思います。今年の中3全国との比較が、数学でマイナス3.3、小学校6年のときはマイナス2.2でしたので、1.1ポイント悪くなっています。ただ、去年の中3はマイナス13.5だったのですが小学校6年生のときはマイナス15.2ポイントでしたので、1.7ポイント伸びている。国語、全国との比較が今年の中3マイナス0.3ポイント、6年生のときはマイナス2.6ポイントだったので、3ポイント近く伸びています。去年の中3、マイナス6.1ポイントだったのですが6年生のときはマイナス4.7ポイントだったので、1.4ポイント落ちている。科目とかその学年で動きが結構バラバラなので、ちょっと分析しづらい。ななかまを開塾したから良くなったのではないかと。通級は今年から始めたことなのでこれに反映されてないですが、専科の先生が来て少し授業内容が改善されたのでは？ っていうところも分析しかねる感じではあります。ちょっと傾向が読めないところではあります。
相澤教育長	その他ございますか。
委員	ありません。

相澤教育長	それでは、議案第 2 号は可決いたします。
相澤教育長	それでは、 議案第 3 号「令和 8 年度から使用する教科用図書の採択について」 説明をお願いします。
遠藤局長	説明
相澤教育長	質問等ございますか。
委員	ありません。
相澤教育長	それでは、議案第 3 号は可決いたします。
相澤教育長	協議に入る前に 5 分ほど休憩いたします。
	～休憩～
相澤教育長	会議を再開いたします。 それでは、 次第 7 番「協議」 に入ります。
相澤教育長	この後の流れですけれども、今日配らせていただいた「奈井江町教育ビジョン策定スケジュール」をご覧くださいと思います。7 月の教育委員会の時に検討委員さんか素案をいただきました。それが前回というか、今日手元にあるかと思います。それで最終確定については、もうちょっと先になるのですが、今日と、それから 9 月の教育委員会にて 7～8 割程度のところまで作りこみをして、町長との総合教育会議に臨みたいと思っています。そして、町長から意見をもらった後、取り入れるべき意見を取り入れた後に、周知をしてパブリックコメントを行い、最終的にビジョンを確定したいと思っています。途中経過説明はちょっと端折りましたけれど、このような流れでビジョン策定をしていきたいなというふうに思っております。それで、2 回の中で素案を作りたいと思っていますので、今日の皆さんとの話し合いは、一応 1 時間ぐらいを目処に、矢萩委員が欠席されているということもあるので、頭から最後まで流してみんなでざっくばらんに意見を言い合って、お互いにどう思っているのかを確認しながら、素案作りの一歩手前の作業をしていきたいと思います。そして、9 月の教育委員会ではもう 1 回、1 つずつ矢萩委員さんも入ってもらうのと、前回の教育ビジョンを作っていたときもそうだったのですが、教育委員だけではなく、まさに教育行政を担当しているうちのスタッフたちからも意見も言ってもらいながら、みんなで聞き取り、参考にできるものは参考にし、いいなと思っていただけるようでしたら、それも最終素案に盛り込むというふうにしたいと思います。なので 9 月の中旬までの間に、検討委員さんに作ってもらったものに我々の考えと、うちのスタッフの考えを入れて、次回の会議後に素案確定し、その出来たものを皆さんと共有した上で、それを持って、町長との総合教育会議に臨みたいと思います。そして前回の、4 年前の教育ビジョンの時もそうしたと思うのですが、僕も 1 委員として好きなことを言わせてもらいたいと思っていますので、ここからの司会については局長にお願いすることにします。局長、よろしくお願いします。
遠藤局長	それでは、協議に入りたいと思います。教育ビジョンの結果、検討結果報告 1 枚目をめくっていただいて、全体的に全部 1 時間の中でということもありますが、ある程度区切りながら、意見を確認していきたいと思います。よろしくお願いします。

遠藤局長	検討委員さんからの改定案的なものは赤字になっていたりですとか、この A3 の方で言うと右側が変わっているところがありますが、教育委員皆様にとってはこの変わった部分だけではなくて当然変わってない部分についても確認をしていただきたいので、今回検討委員の中では変更がない部分についてもご意見があれば、一緒に発言していただければと思います。 それでは、1 ページの「基本理念」について、いかがでしょうか。今回後期に向けての改定なので、大きくリニューアルっていうことにはならないにしろ、どのようにお考えですか、何かご意見あれば発言をお願いいたします。
委員	なし
遠藤局長	次、「重点目標」ということになりますが、これは次の A 3 のページごとに検討した結果により修正されることとなりますので、次 2 ページに進めさせていただきます。 「Ⅰ. 奈井江を識り、世界を識る」。上から進めていきます。「1 「ふるさと奈井江」を学ぶ活動を行います」という欄になりますが、この部分について何かご意見があればお願いします。特に、教育ビジョン検討委員としては、「風土」を加えたらどうかという内容となっています。
相澤教育長	「風土」って学ぶものでしょうか。
三原委員	私は「学ぶ」という表現に違和感はありませんが。
相澤教育長	わかりました。
遠藤局長	それでは、「2 友好都市や外国語指導助手との交流から世界を識る教育を行います」という部分になりますが、こちらで何かご意見とかありますか。この大きな変化はないのかなとは思いますがよろしいですか。
委員	なし
遠藤局長	次に進みます、「3 ICT を使いこなせる人を育てます」です。こちらについては、3 つあったものを今回 2 つに圧縮というか、精査したようなイメージになっておりますが、こちらについてはいかがでしょうか。今までは、「端末を活用します」というのが項目としてあったのですが、端末の活用は当然というかですね、すごく身近なものになっているので、あえてそこの記載は削除したということでありまして。特にご意見ありませんか。
相澤教育長	「①IT 能力を高めます」なんだけれども、その次の実施事業のところ「インターネットや SNS、アプリなど総合的な情報技術を使いこなす能力を高めます」となっていて、4 年前は SNS の時代だったと思うのですが、今 SNS はすでに日常的になっていて、それほど重要なのかなと思うのですが。今日的なこと例えば、ChatGPT だったり生成 AI みたいなものの方がスキルとして身につけたりとか、使いこなせたりっていうことが重要なのかなと思います。4 年間経過して大きく変わった部分でもあるかと思いますが。
井上主幹	その生成 AI に関しては、まだ学校での使用をどうするか、検討段階でもあることから、そこをここに書き込むかということで、悩んだのですが、事務局としてはあえて書き込まなかったところです。学校の先生たちの利用に関しても、どこまでどういうふうにご利用させるか、今ちょっと個人で利用される人はいると思うのですが、学校の中での活用が進んでいないものですから。

相澤教育長	それは発想が逆で、ここで必要なので学校でもやってもらうっていうことではないでしょうか。学校でやってないからここに書けないってことですか。ここに書くことの一番の理由は、奈井江町教育委員会として、みんなが子どもたちに、やらせるべきだとしたら、ここに書き込まれ、書き込まれたから学校にも取り組んでもらうということだだと思います。
井上主幹	生成 AI に対する活用の方向性において、私達がまだ覚悟ができてないというところもあったので、それは教育委員会としてやるという方向性であれば書き込むべきことだと思います。ただ、生成 AI を使うために環境を整備する必要があるって、結構な経費がかかってくるのではないかなと思っていて、その整備がまだ追いついてないのと、あと、町自体が生成 AI を取り入れていないので、教育の方だけが先行するのがどうなのかというところもあって入れませんでした。
三原委員	生成 AI は、ものすごく便利ですけど、今の段階で、子どもたちに積極的に使いなさいっていうところまではまだ言えないんじゃないのかなって僕は思います。先生が使うのはいいと思いますけど。
山本委員	ちょっと話変わってしまうかもしれませんが、使いこなすのも大事なのですが、以前の段階で、生成 AI は自分で指示を出すと作ってくれるじゃないですか、機械を使いこなすのもそうですが、何より使いこなすための能力というか、感覚というか感性というか、そこを育てることが大切だと思います。
相澤教育長	その部分は②に重要なこととして書かれていると思うので、山本さんの意見が皆がそうだとするならば、例えばこの①と②を逆にしてもいいのかもしれないかもしれません。
遠藤局長	「②情報リテラシーを身につけます」の記載しているものが、今、山本委員がおっしゃった部分で解釈できるのかなと思います。あと、教育長が最初におっしゃっていただいた、今実際に ICT を使いこなすとなったとき、4 年間たった時代の変化というものに対して着目したのが、SNS よりも ChatGPT だとか、AI なのかっていうところは間違いなく置き換えていくことになるかと思うけれども、それをうちの町の教育の持って行き方として、どこまでっていうのはすごく考えなきゃいけないなっていうのは感じます。よろしいですか。
委員	なし
遠藤局長	次「4 自ら学ぶ芽を育てます」。この部分についてはいかがでしょうか。ここは、題目が修正されたのと、②に文言の表現が追加されています。
相澤教育長	「受け身ではなく」はどうして削られたのでしょうか。
井上主幹	これは、色々な子がいるので、その積極性がある子だったり、自らガツガツ行く子だけが良いというような雰囲気にとられてしまうので、この「受け身」ということが「悪いことなのか」というような意見がありました。私達が 4 年前にビジョンを策定したときは、もっと積極的に自発的に勉強しようっていうような、自発と受け身っていうような対比みたいな形で文言を使ったのですが、それが検討委員の方の中では、マイナスに受け取られますっていうような意見があったので、あえてそこを表現しなくてもということで「自ら学ぶ芽を育てます」というところで十分包含される表現にありますねっていうよ

井上主幹	うことで、そういう表現をまとめました。
遠藤局長	いかがでしょうか。
委員	なし
遠藤局長	次に進みたいと思います。3ページ「Ⅱ.他人を知り、違いを認め、切磋琢磨する」。「1創造性と探求心を育てます」。いかがでしょうか。
委員	なし
遠藤局長	次に進みます。「2自立と尊重の心を育てます」。ご意見ありますか。
相澤教育長	「心を育てる」って大事なこともかもしれないけど、そこにとらわれると、今の子どもたちって受け止められないし、そもそも子どもに完璧な心なんて求められないっていうのが工藤先生の考えで、ちょっとうまく表現できてないけど、1では「探求心」って表現していて、結果「心を育てる」ってこと。「②他人を大切にし、尊重します」の実施事業の中でも「心を育てます」と書かれています。僕たちが今年1年かけて、3回にわたって工藤先生から教えてもらおうとしていることと、ちょっと違ってくるように思うのですがどうでしょうか。
井上主幹	「心を育てる」という表現が、一概に工藤先生の考えと違うか、ということそうではないようにも思いますが、表現の捉え方として誤解が生じるようであれば、表現を改めて考えてみます。
相澤教育長	言わんとしていることは理解しますが、次回にまた協議ということで。
遠藤局長	それでは次「3チャレンジする気持ち、互いに高め合う気持ちを育てます」。ご意見ありますか。
三原委員	「競い合う」という言葉が4年前には意識していた言葉だと思うのですが。ちょっと攻めたというか。その背景には「競い合った結果高め合うのだよ」という背景があったと思うので、結果、高め合うということではあるのですが、「競い合う」に込めた思いがあったので、そこが変わった経過ってどうだったのでしょうか。
井上主幹	「競う合う事が正しい」のですか、という意見がありました。競い合わせる事がやっぱり尖っているっていうふうに見えますという事ですね、4年前は、あえてその言葉を選んで使いましたと説明はしたのですが、やはり、時代背景とともにその尖った言い方がきつく感じるというような意見でした。
三原委員	なるほど。あえてだったんですけどね。
井上主幹	そこをあえて、教育委員会が尖らせるっていう方向もあるかも知れない。検討委員さんの意見としては、全体的に尖った表現というか、あえて教育委員会がこだわって表現したものへの意見が多かったように思います。
相澤教育長	検討する人数が増えると表現であったり、考えが尖っているっていうところは丸められる傾向にあるので、だからこの意見を否定するのではなくて、検討委員さんはこういう考え、で教育委員会としてはどうなのか、ということになると思います。
井上主幹	あと「競い合う」という表現に関しては、保護者さんもそうでしたけど、学校からもちょっと否定的な意見はありました。時代だと思います。
三原委員	僕も聞きました。競い合うって言葉聞いたらもう引いちゃうって今の子は

三原委員	難しいです。
井上主幹	だから、そういうふうなニュアンスはわかるので「高め合う」という表現がいいのではないかなというようにことでした。
相澤教育長	4年前と今とで、そこ変わったかっていうのはちょっとポイントを置いて、「高め合う」ということは相手がいることで、2人かも知れないし、10人かも知れないし、もっと言ったら学年としても30人全員ってことかも知れない。それとも、まったく逆に「自らを高める」姿勢に重きをおくのか。ビジョンとしてどう捉えるか。
山本委員	自ら高め互いに高め合うことになる、例えばテストで、息子が、結構まわりを意識していたんですね。みんな頑張っていることを、だから自分を高めたら互いに高め合ってくれるのか、それとも互いに高めているから自分を高めているのか、どっちなのかなって。これ聞いて、それを思い出しました。とはいっても、やっぱり「競い合う」ということを好む子好まない子それぞれ違うと思いますので、難しいですね。
相澤教育長	今の子どもの実態っていうことを置き去りには議論できないのだけれど、今の子どもたちを見たときに、やっぱりここはもうちょっとこうなって欲しいな、というようなことをここに謳い込んで、政策をやっていくということだと思うのです。そのときに教育委員さんたちが目標とするとか、子どもたちに求めるものが、互いに高め合う子どもになって欲しいのか、それとも自ら1人でも頑張っていく子を育てようと思うのか、どちらなのか。
三原委員	私は「互いに」です。
塩田委員	個かな。
山本委員	人間最後には1人なので、自分でできる力をつけるためにも、逞しく育つためにも個の強さが必要なのかなと思います。
塩田委員	色々な子がいるので、難しいですね。
相澤教育長	2人の話を聞いて改めて三原委員どうですか。個にきなさいという意味ではなく。
三原委員	はい。ななかまのピーマン販売をするときに、お世話を頑張ったランキングで店頭を立てる人を決めたと聞きました、とても美しい話だと思いました、僕はそういうところがとても好きなので、やっぱり「互いに」だと思います。
相澤教育長	それでは、これも次回に向けて保留ということで。
遠藤局長	それでは、これは持ち越しという事で、次4ページです。「Ⅲ.得意なこと、好きなことを生涯続ける」。「1 学びや文化・スポーツなど、「生涯の友」を見つけます」。いかがでしょうか。1 の部分は、読書の部分が次の2の方に移行していくこともあるので、「2 学びの場を広げ、人生を豊かにします」も含めて、ご意見ありますか。
相澤教育長	これも「自分に合ったもの」が削られているのだけど、それは何かありましたか。
井上主幹	「自分に合ったもの」って、当たり前のことだから削ってもいいのではないかなという意見だったと思います。自分に合わないものは選ばないので、あえて強調する必要があるか、という意見だったと思います。

遠藤局長	あと、「本を読み…」の項目を2の方に移行するという事に何かご意見ある方いらっしゃいますか。どうした方がいいとか、あるいは今のままでいいですとか。
三原委員	なんか「1」の方がしっくりする気がしますけどね。どうしてわざわざ「2」に移動させたのか。
井上主幹	4年前に作ったときは、本を読んで欲しいっていうようなことが前面にビジョンに入れ込んだということを説明しましたが、「生涯の友を見つけます」という項目に、この「本を読んで自分の世界を広げる」ということが違和感があり、本は読む人は読むのかもしれないけれど、読まないことを否定されることでもないのじゃないか、みたいなことがあって、その時に自分の人生を豊かにする方法として、本を読みたい人読まない人もいたりもするし、かといって、本を読むことが大切っていうのも当然理解もするので、そうすると、2番の方に、項目を変えて、人生を豊かにする方法の1つに本を読むことをニュアンスを入れ込むような形で整理したところです。
相澤教育長	まさに町民視点と教育委員会視点の違いですね。町民は別に強制されるもんじゃないだろうっていうふうに思うし、教育委員会としては、たくさん読んで欲しいと思うから、「1」に置いているし、町民目線だとそういうことになるから「2」でいいだろうってことになる。
井上主幹	この項目1～3の順番も、最優先順位というより、項目別という理解だと思います。本を読むこと自体が優先度が低いということではなくて、項目として分けた時に、ここに入るのは違和感があるというだけのことだと思います。
相澤教育長	そのままでいい気はするのですが。
遠藤局長	まさに本を読んで欲しいとかっていう想いを表すのなら「1」、選択肢の一つみたいな感じで納めるなら「2」というところでしょうか。
相澤教育長	今の町民感覚って、一番の①のところもそうなのかなって感想を持っています、4年前の時は「生涯続けることを探します」となっていて、これは深読みすると、楽しいこともあるし、楽しくないこともあるのだけど、人から求められてやらなきゃいけないこともある。新しい方は「生涯続けられること」って言っているから、今の自分ができることだけを定義している。そこも町民目線だと「続けられること」になるけど、教育委員会目線だと「続けることを探してください」。これは個人だけじゃなくて実は周りの人だったり地域だったりも包含するのかなと思います。
山本委員	「②文化・スポーツを楽しみます」のところ、今回スポーツの関心興味を深め体験をする活動や知識を広げたりする中には、きっとこの楽しいって、面白いに重きを置いている感じがします。さっきの部活動のサークル活動的な話もありましたが、サークル的だと「楽しい」だけど、大変なこと辛いこともあるけれど成果がでる。どんな部活だってドラマがあって苦しいことがあって、そのうえで、勝ったりしたり喜びの楽しさって、こっちの楽しいじゃなくて「愉しい」だと思うのですよね。きっと何をもって「楽しい」とするかで、こちらはサークル的かなと思うので、ちょっと表現が違うのかなって感じました。

井上主幹	このページ「Ⅲ」は、子ども目線というよりは、どちらかというと生涯教育とか社会教育の目線にしているページだったので、子どもたちだけではなく、生涯学んだり、趣味をもって楽しみましょう、みたいなことで、人生全体への思いをイメージして作成しているので、子どもたちの「部活動」だけに捉われていないので、こういう表現になっています。
相澤教育長	余暇の過ごし方というか。
井上主幹	そうですね。ただ何も趣味もなく人生終わるのではなく、一生を通した中で何か楽しめることってあったらいいよね、見つけたらいいよね、というような思いで作った社会教育全体のページなので、子どもに特化したものではないのですよね。
山本委員	色々やっていくと、どんどんステップアップしたくなりますよね。初歩的なことから教わって、できるようになったら、ちょっと上とか、もう少し難しいものへ。パズルもそうじゃないですか、50 ピースができれば 100 ピースを作ってみたくなくて、その後 1000 ピース作ってみたくなくなりますよね。大変だけどそれが楽しくなるというか。
井上主幹	ステップアップとしてはあるかもしれないですが、何もなかった人がいきなりその目標に行くかっていうところがあって、4年前は、そういったことから、まずその楽しむことからっていうような、サークル活動とかも、奈井江町自体がちょっと衰退してきていて、みんなが楽しめるものをどんどん増やしていくとか、そういうところをどんどん広げるような活動が必要ということから、色々な体験できる場を作ろう、まず楽しむことから始めようみたいなことを書き込んだ記憶があります。それをさらに、今回ステップアップした方が良いということであれば、表現を見直してもいいのかもしれないですが、この4年間で、ステップアップの段階に至っているのかということもあると思います。
相澤教育長	ではそれも宿題ということで。そして、2番のタイトル変わっているのと、2の③が新しく増えているでしょう。それは皆さんどうですかね。
塩田委員	2-③番ですが、「学校が」という表現だと、誘導的なところにとらわれないでしょうか。誘導的というか、子どもも大人も育つための場の中心が「学校」というような。考えすぎでしょうか。地域の成長に繋がる場になるように、学校が指導しなきゃならないという意味に捉えられてしまうというか。
井上主幹	コミュニティ・スクールについて触れている項目でしたので、令和5年度からコミュニティ・スクールが発足されて、活動も充実してきた中で、地域連携協働活動が活発化し、地域も学校も成長できればという意見がありました。学校が指導するというものではなかったです。
相澤教育長	コミュニティ・スクールって、地域が成長することになるのでしょうか？
井上主幹	地域連携協働活動の部分で、地域の方にもっと積極的に関わってもらい、協働できれば、地域も活性化するのではという視点だったのですが、コミュニティ・スクールの仕組みとは別かもしれません。地域連携協働活動がコミュニティ・スクールと連携協働していく必要があるという意味で、そのように表現してしまいましたが、この辺、少し整理したいと思います。

遠藤局長	それでは、最後「3 音楽や芸術を楽しみます」。いかがでしょうか。
相澤教育長	②の実施事業で「ジャンル」と「粋」って、同様な意味な様な気がしますけど、何か意味するところがありますか。
井上主幹	確かにそうですね。「ジャンル」に統一します。
相澤教育長	あと、①の実施事業で、「成果を発表する場」って書いていますが、「成果」って「成し遂げた良い結果」といった意味合いがあって、最近コンチェルトホールで色々な発表の場、例えば、オタマトーンとか含め、音楽を楽しむ場、チャレンジの場という場にもなっていると思いますが、「成果」という表現でいいでしょうか。
井上主幹	練習の成果を発表する場という意味で表現しましたが、確かに「成果」という意味は、「成し遂げた良い結果」、「目的を達成した結果」ですね。ただ、その成果をどう捉えるかだと思うのですが、どうでしょう。
山本委員	練習の成果で良い気がしますけど。
相澤教育長	ただ、町民目線でこのビジョンを見た時に、「成果を発表」って言われると、ハードルが高く感じてしまうのではないかなと思うのですが。
山本委員	私の私見ですが、私は中学校1年生から演奏会とか高校なってからも身近に使用できていたので、コンチェルトホールのステージを特別なものじゃない感覚でいるのですよ。ただ、ステージの上で発表することをあんまりやってない人だと、とてもハードルが高いと感じるのかもしれない。
遠藤局長	確かに、みんなに広く活動して欲しいという意味で行くと、チャレンジの場という意味合いの方がいいかもしれません。
相澤教育長	4年前議論したときに、塩田委員と山本委員はまだいらっしゃらなかった。ちょっとうろ覚えだから間違っているかもしれないが、奈井江町には音楽専用のホールがある、そこは質の高い音楽を提供する場でもある、でもそのときはまだ、ワンランク上のホールとして質の高いものを提供するホールなので成果も発表してほしいし、成果を求めているみたいな背景があったような記憶があります。今、4年経ってみて、ホールの位置づけ自体は変わるものではないですが、音楽の協力隊などがいっぱい来てくれて、色々なジャンルの音楽、例えばオタマトーンみたいなものの演奏会の場であったりとか、奈中ブラスバンド部の人数がどんどん減ってきてしまって、レベルが多少下がってしまったとしても、演奏会を開いていいのだよっていうことが、この4年間の中で目まぐるしく変わっていて。だとしたときに成果を発表する場じゃなくて、例えば採用するかどうか別にして、山本委員が言ってくれた成長を見せる場だよって言うことでもよかったりとか成果じゃない表現の方がいいのじゃないかなっていうことを言いたかった。局長が言ったみたいにチャレンジする場だよねって言うてもいいかも知れない。自ら活動してチャレンジしてきたことを発表する場でいいかもしれない、
井上主幹	自らの活動を発表する場では、シンプルすぎますか、やっぱりチャレンジとあったところも求めていきたいという思いでしょうか。
相澤教育長	ビジョンとしてはちょっと求めたい気はあるよね。
遠藤局長	その他みなさんご意見ございますか。一通り終わりましたが、全体を通して

遠藤局長	でも何かございますか。
三原委員	重点目標の3つ目が、大人も含めたって言う所が共有されていないと思いますね。4年前当初ビジョンには、ビジョン冒頭に説明で書いてあったと思います。1番と2番は子どもたち向けですよ、3番は町民向けですよというような内容のことが。今回もそういった説明は必要だと思います。
相澤教育長	そうですね。改定にあたって、補足的なことが必要かもしれませんね。
三原委員	思ったこととしては、ビジョンの検証って言われたとき、私が真っ新の状態で行ってくださってもいいと言われてたら、文言修正ももちろんなのですが、このビジョンっていうのが、いつ誰の心にあったのか、そこのおさらいも必要かなと思うんですよ。常に先生にも子どもにも保護者にも、町民にもみんなの心に常にありましたよ、なのか、こんなの忘れていました、なのか、正直そんなにみんなの心にはないけれど、教育行政の羅針盤としては機能していたよとか、このビジョンがどういう位置づけだったのか、むしろ検証ってそっちじゃないのかな、と私は思いますが、どうでしょうか。
相澤教育長	まずこれの議論入る前に、事業一覧みたいなので評価したじゃないですか。自己評価みたいなの。その中で色々なことが評価されている、ということがまずあります。それから私も含めて、事務方、常にこのビジョンを思い描いていたかは分かりませんが、少なからずビジョンを実現するために毎年事業をどうするか、予算要求をどうするかということは考えているし、それは教育委員会の職員だけでなく、学校の経営方針にも、しっかり取り込まれていて歴代の校長先生が経営方針を策定する中で、ビジョンを尊重しなきゃいけないって言って取り込まれ、職員室の先生たちとも共有をしてということがあったので、学校現場はしっかり意識されて、学校経営はされていたのかなと思います。ただ一方で、例えば最後のページのところの大人向けのところ、町民向けのところはもしかすると、そんなに意識されてなかったのかもしれないってことはあります。
三原委員	私のイメージは、学校現場の中では、町で教育ビジョンが策定されました学校には学校での考え方がある。そして校長が変わる度に、考えも変わるということがあって、三本柱ってどれなのだろうってなっていないのかなっていうふうには思っていて、その辺はどうでしょうか、
相澤教育長	三本柱にはもちろんなっています。一番最初の1本柱目のビジョンっていうのはすごく意識された上で、経営計画が決まっているっていう印象を持っています。
三原委員	こういうことを議論したっていうことが検証じゃないかなと思うのですよね。言葉も大事なのでしょうが。
相澤教育長	そうですね。
遠藤局長	その他ございませんか。
相澤教育長	一番最初、1ページ目の「基本理念」ですが、検討委員さんは特に変える必要はないってことなのかもしれませんが、3行目のところで、「子どもたち1人ひとりが、美しい田園風景が広がるこの地域と共に、世界を識り、好きなこと、やりたいことを自ら見つけられる」と書いてあって、この表現だと

相澤教育長	“田舎町だよ、ということと農業が基幹産業の町だということは伝わってくるのですが、今日の教育委員会の冒頭の行政報告の中で、プログラミング講座のお話もしましたが、奈井江には住電という会社があって、プログラミングによって製品を作っていて、世界に出荷していますよってということを説明しましたが、そういう町だよとか、そういうところで暮らしてる子どもたちだよ、ということは盛り込んだ方がいいのか、入れるとややこしくなるので入れなくてもいいのじゃないか、ということでもいいのですが、その辺はどうでしょうか。
三原委員	基本理念の中にということですね。
相澤教育長	基本理念の中にこの３行目と４行目だけだったら、田舎町で基幹産業の農業の定義でしかない。一方で、農業の生産額よりも住電の出荷額の方が何倍もあるわけで、今日の会議で最初の方の行政報告の中で、今、デジタルの時代でプログラミングを子どもたちに勉強させて、それがキャリア教育だったり、ゲームとかだけじゃなくて、世の中プログラミングで動いてるのだよ、という事もしっかりと学び取ってもらった上で、自分が大人になったときにどうしようかっていう事も知ってもらいたくて、住電に協力してもらって、見せたわけです。そして、教育ビジョンの中に奈井江を識り世界を識る、みたいな項目があったりするのですが、だとしたときに、ここの基本理念の３行目のところが「美しい田園風景が広がるこの地域と共に」だけでいいのかどうか、インターネット立ち上げたら、世界の扉が開ける、それは前回の教育ビジョンを作っているときも出てきた話で、もっと地に足ついて、世界と繋がっている企業も地元にあって、いろんな工業製品を出荷しているわけで、世界に通じてとか世界を識っている企業がある、ちょっと余計なことになってしまうかもしれませんが、そこの企業とアクセスしたら世界が識れる、そこに就職できたらわざわざ町外に仕事を求めていく必要がない。「小さな町から広がる未来」というのは変えなくていいと思っていますが、広がる未来は実は地元にもあるよ、足がかりは地元にもあるよということをこの文章の中で、盛り込んだ方がいいのか、今まででいいのか。
井上主幹	それは、一度も町外にでなくても感じられるものなのではないでしょうか。最初から奈井江町だけで人生を終えた方が良く、という感覚で育てた方が良くということ盛り込んだ方が良くということではないでしょうか。町外に出てみて気づくこと、改めてふるさとの良さを知るといえるか、そういうこともあると思います。子どもたちの選択肢なので、町内を選択する子や町外を選択する子もいると思うので、基本理念にどこまで表現していくか。
相澤教育長	確かに相反することにはなるのですが、両方分かっていた方がいいと思うのですよね。世界ってすごいんだってことも知っていた方がいいし、奈井江ってこんな良いところあるんだ、とか奈井江ってこういうところがすごいんだっていうのも、やっぱり同時に知っていただければいいかなと思います。
井上主幹	選択肢ですよ。
相澤教育長	その上で私は東京でこうやってみたいでもいいし、私は地元に残ってプロパンガス会社で頑張っていくんだ、でも素晴らしいことだし、奈井江に住んで

相澤教育長	いるのだけれど働いているのは札幌だよっていうことだってあるでしょうし、色々な選択肢がもてるというような。
三原委員	盛り込もうとすると、ボリュームがでてしまって、理念として伝えるのが難しそうです。
相澤教育長	だからあんまり入れられないけど、逆に増えたからって他のところを削ると伝えたいことが伝わらなくなってくるので、若干だけ加筆するってことになるのかもしれないですけど、そこをどのようにするかですね。
塩田委員	でもそれを入れたことで、3番4番に繋がる場所はあるので、入れた方がいいのかなとは思いますが、ここの表現は、次回までの宿題ということでしょうか。
相澤教育長	時間も長くなってしまっているんで、全体で保留としたようなところを、次回までにみんなで考えてくるということにしましょう。
遠藤局長	では、次回に改めて協議するということにします。教育ビジョンの協議が終わりましたので、進行を教育長に戻します。教育長よろしくお願いいたします。
相澤教育長	それでは次第8番「その他」について、事務局より説明をお願いします。
事務局	8. その他 ○連絡事項 ・教育支援係分～井上主幹説明 ・文化振興係分～井内主幹説明 ○次回開催 令和7年9月18日（木）午前9時～ ※ 教育ビジョン、部活動地域移行の協議があるので、午後1時からの予定を午前からに変更
相澤教育長	説明がありましたが、何かございますか。
委員	ありません。
相澤教育長	それでは本当に長い時間お疲れ様でした。 以上で、第8回教育委員会を終了いたします。
	9. 閉会 16:30